

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	兵庫県立但馬地域新設特別支援学	階数	地上3F
建設地	兵庫県豊岡市	構造	RC造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	220人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,140時間/年(想定値)
建物用途	学校,集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2024年11月20日
敷地面積	22,384 m ²	作成者	浦辺設計 国居
建築面積	4,895 m ²	確認日	2024年11月22日
延床面積	8,394 m ²	確認者	浦辺設計 河原



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	89%
③上記+②以外の	89%
④上記+	89%

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
音環境: 3.2	機能性: 2.8	生物環境: 2.0
温熱環境: 3.3	耐用性: 3.0	まちなみ: 4.0
光・視環境: 3.5	対応性: 3.3	地域性: 3.0
空気質環境: 3.5		

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮の: 4.8	水資源: 3.8	地球温暖化: 3.4
自然エネ: 2.0	非再生材料の: 3.7	地域環境: 3.1
設備システム効率化: 2.9	汚染物質: 3.0	周辺環境: 2.8
効率的: 3.0		

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>聴覚障がい特別支援学校と知的障がい特別支援学校の統合に伴う校舎新築。聴覚は幼・小・中・高、知的は小・中・高の学部を設置。屋内広場を中心に、それぞれの障がい教育の良さを融合できる「学習エリア」、センター的機能を担う「教育支援エリア」、地域含む多様な利用に対応する「文化交流エリア」を構成。風土・立地条件を尊重し、地域に関われ、安全・安心の拠り所となり、維持管理しやすく永く愛される学校をめざす。</p>	<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>庭を設け、廊下や階段に光が差し込み、教室だけでなく、学校全体が明るくなるよう設計。教室の照度は500lxに設定し、昼光と合わせて明るい教室環境をつくる。仕上材はF☆☆☆☆の建材を採用。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>中庭を介して全体を見通すことができる回廊型平面計画で、一体感のある学習環境を形成。建築基準法の1.25倍の耐震性を確保し校舎全体をバリアフリー化することで、安全安心の拠り所となる性能を有する。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>夏は暑く、冬は寒い厳しい環境を和らげるため、外皮には断熱材を50mm以上、窓にはLow-Eペアガラスを採用するなど外皮性能強化に努めると共に、高効率設備機器を積極的に採用し、省エネ性能と快適な屋内環境を両立。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>雨水を貯留し、屋上菜園の散水に使用する計画とした。仕上材にはエコマーク商品やグリーン購入法適合マークの商品を適所に採用する。身近な環境学習の場を設けることでSDGsの理解・普及に貢献する。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>東側に円山川、西側背後に里山を有する環境から、東側のボリュームを抑え、景観になじむ勾配屋根を要所に採用。地域の多様な利用に対応する屋内広場・体育館・多目的室・子育てサロンなど文化交流エリアを設ける。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>適切な量の駐輪場と駐車スペースを確保し、敷地内に十分な車路スペースを設けた。車両・歩行者の道路出入口については門扉を敷地境界からセットバックし、視距を十分に確保する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される